



みこし  
元気が一番！子ども神輿

特集1

## いいたて 春のにぎわい

祭り 春の農作業 イベントもモリモリ

特集2

地域を守る消防団

フォトニュース

いいたてっ子運動会 こども園・小学校・中学校が力を結集！



今月の特集

10年ぶりに行われた大雷神社の遷宮大祭ほか村の春のにぎわいをお伝えします。



大いなる田舎  
までいライフ  
いいたて

# 春が来たよ、飯館に

避難指示解除から1年を越えて、春の飯館は、祭りやイベントでにぎわいました。飯館地区の大雷神社では、10年ぶりに大祭が行われました。大火山の山ツツジの群生地や、イベントが開かれた道の駅にも、たくさんの笑顔がありました。また、農業再生への取り組みも、一つひとつが力強く進められています。そんな今年の春景色を集めました。どうぞご覧ください。



飯館 春の  
にぎわい

## いいたて四季彩景 ● レッドクローバーの花畑



松塚地区の農地を赤く染めたレッドクローバー。とんがり帽子がやさしい風に揺れていました。



### CONTENTS 目次

- 3 特集1 いいたて春のにぎわい
- 16 復興を歩む サポートセンター「つながっぺ」
- 18 特集2 ふるさとを守る消防団
- 20 職員募集のお知らせ
- 21 報告のページ 村の動画が国際賞を受賞
- 22 いいたて便り
- 24 つながるアルバム
- 25 ちょっと昔のいいたてライフ ほか
- 26 お知らせ
- 27 入札結果
- 28 ひとかたるものがたり / 堀先生相談室
- 29 こころのぼけっと / ひとのうごき
- 30 フォトニュース いいたてっ子運動会
- 32 ホープス / 編集後記

大雷神社遷宮大祭の「子ども神輿(みこし)」。久しぶりに再会した友達と一緒に、子ども達は元気いっぱい神輿を引いて、ふるさとの祭りを味わいました。



●表紙のおはなし●



赤坂神楽団



外内の手踊り



阿波踊りきずな(福島市)



外内の手踊り

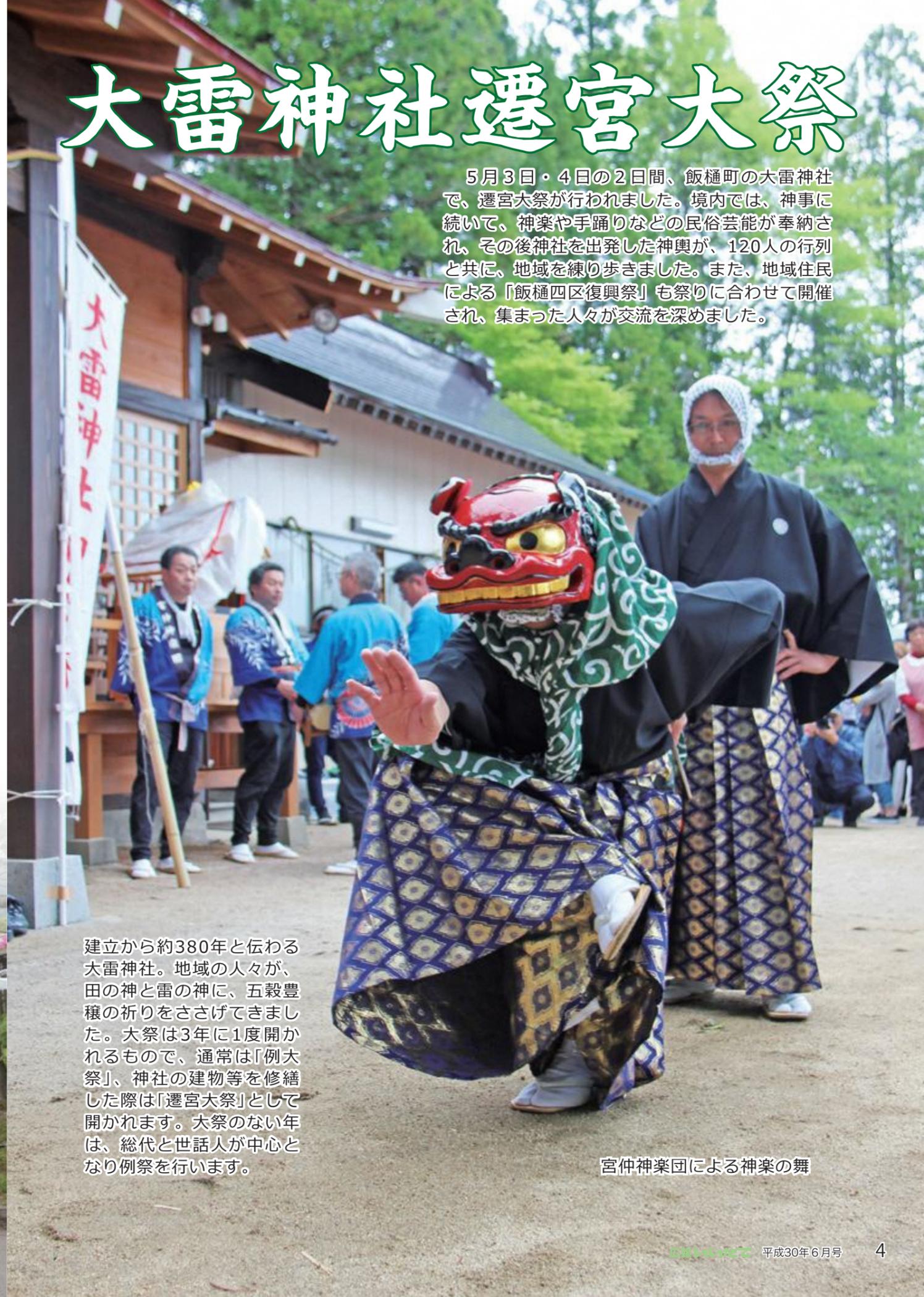
離ればなれの避難を乗り越えてきた見事な神楽、直前まで練習したという手踊り、避難中にながりのできた阿波踊りなどが、途切れることなく奉納されました。また、村外で暮らす人も駆けつけて、大勢の笑顔が沿道を埋めていました。それは皆が待ち焦がれた光景でした。にぎやかさの中で時折ぐつと目をうるませる人も多くあり、人々が語らずとも思いを分かち合っていました。

### この日を待っていたー 10年ぶりの大祭

震災前まで3年に一度行われていた大祭。今回は、平成20年以来10年ぶりの復活開催となりました。平成23年に予定されていた例大祭が震災の影響で中止となり、全村避難となった後は、8人の総代と世話人が毎年の例祭を行いながら、大祭復活へ思いをつないできました。

# 大雷神社遷宮大祭

5月3日・4日の2日間、飯樋町の大雷神社で、遷宮大祭が行われました。境内では、神事に続いて、神楽や手踊りなどの民俗芸能が奉納され、その後神社を出発した神輿が、120人の行列と共に、地域を練り歩きました。また、地域住民による「飯樋四区復興祭」も祭りに合わせて開催され、集まった人々が交流を深めました。



建立から約380年と伝わる大雷神社。地域の人々が、田の神と雷の神に、五穀豊穡の祈りをささげてきました。大祭は3年に1度開かれるもので、通常は「例大祭」、神社の建物等を修繕した際は「遷宮大祭」として開かれます。大祭のない年は、総代と世話人が中心となり例祭を行います。

宮仲神楽団による神楽の舞





## 皆が力を合わせた祭り 喜んでもらえて満足

避難指示の解除が決まった2年前から「再来年はやろう」と話し合っていました。

よかった。元気になった。皆に喜んでもらおうと精一杯仕掛けた。地域の有志も手伝ってくれた。飯樋四区復興祭(次ページ参照)と一緒に開いてくれたのもよかった。他の地区にも波及したらいいなと思う。工夫すればできるよ…とやったつもりだ。

みんなに「ありがとう」と言われたんだ。「ありがとう」とうれしかった。今日は満足だよ。



大雷神社 総代長  
高橋英明さん(上飯樋)

## 復興の息吹を連れて 地域をめぐる行列

大雷神社を出発した行列は、3日に宮仲、大火、上飯樋、4日に飯樋町、八和木、前田、大久保、外内をめぐるりました。神輿、馬に乗った神職と共に、袴(かみしも)や天狗の装束(しょうぞく)を身に着けた人々が、晴れやかな笑顔で行列を作りました。神楽や踊りを奉納した人々も続きます。道中の集会所や沿道の観客から振る舞いを受けながら、行列は悠々と進みましました。故郷に寄せる皆の思いが、地域の隅々にまで染み渡っていくようでした。



# 飯樋四区復興祭

## 故郷に笑顔広がる



飯樋四区復興祭実行委員会  
会長 荒利喜さん（飯樋町）

2日間にわたり、遷宮大祭と復興祭を行うことができ、本当によかった。遠くから駆けつけてくださった方もあり、盛り上げていただいた皆さんに心からお礼を申し上げます。

力も得て開催したものです。「遠くからの人も、久しぶりの人もいっぱいいる」。地域の女性がうれしそうに境内のにぎわいを見つめていました。民俗芸能などの披露に合わせて、村外・県外からも賛助出演があり、ステージも華やぎました。焼きそばなどを振る舞う屋台も大忙し。心尽くしのもてなしで、会場は大いに盛り上がりました。

待ち焦がれたこの日を共に――  
「飯樋四区復興祭」は、遷宮大祭と同じ5月3日・4日の両日、境内に設けた特設会場で行われました。地域住民の中には、今も避難先で暮らす人が少なくありません。遷宮大祭に集う中で、連帯感を確かめ合おうと、飯樋4区（飯樋町、前田・八和木、大久保・外内、上飯樋）が実行委員会を立ち上げ、村内外の協



村内外の10団体がステージを盛り上げました。上から「福島大学吹奏楽団」「月桃の花歌舞団（沖縄県）」「ウィングポップス楽団（新地町）」「飯館フラクラブ」

### 春の にぎわい

#### Interviewインタビュー

千葉悦子さん  
放送大学福島学習センター  
所長・特任教授



元福島大学副学長。農村女性に焦点をあてた研究で長期にわたって村と関わり、震災後は、学生と共に、地域再生に向けた支援を続けています。

よくこれだけの人が集まりましたね。すごいな…というのが率直な感想です。県外を含むあちこちから参加する人もありました。福島大学の学生も神輿をかつぎに来ています。皆力を貸したいと来る一私もその1人です。そして、復興に力を尽くす有志の皆さんに呼応して、離れていてもこうして地域の人が集まる。人と人とのつながりを改めて感じる2日間でした。昔を思い出しますね。こうした動きが村全体、若い人にも広がっていくといいですね。



実行委員会が復興鍋や屋台グルメを提供



紅白の餅をまいた「復興の餅投げ」



来場者に感謝を伝える荒会長



ユーモラスな踊りが笑いを誘います



# 農地にも春が来た!

今年も田植えの季節がやってきました。米作りを行う水田も、昨年より一段と多くなり、12地区合わせて約21ヘクタールとなりました。牛飼いを再開する人も、6件まで増えました。野菜づくりでも、出荷に取り組む人、自家用の「生きがい農業」に励む人が、共に増えています。花卉栽培の新たな取り組みも続いています。緑肥となる景観作物の花畑も、村内のあちらこちらに見られました。まだまだ部分的ではありますが、飯館の農地もまた、春の息吹にあふれています。

米作りをしながら、新たに小菊の栽培にも挑戦しています。



小菊栽培も初めてだからと言い訳せずに順調にやりたいの。ドキドキですよ。

齋藤昌良さん・眞喜子さん夫婦（深谷）は深谷地区で米作りを再開。この地区での再開はこれが初めてです



3枚の水田に鉄コーティングした「里山のつぶ」を直播き。田植え機を運転するのは高橋松一さん(二枚橋・須萱)です。協力しながらの農作業は、笑いが絶えません



震災直後から栽培実証に協力してきた高野靖夫さん・笑子さん夫婦（前田・八和木）。昨年に続き八和木地区で米作りを行います。

お父さんはじっとしていられないんですよ…(?)



八和木地区で田植えをしていた高野靖夫さん・笑子さん夫婦は、平成24年から、国や村の栽培実証に協力を続けてきました。その蓄積が今、田植え再開の着実な増加につながっています。高野さん夫婦は、昨年よりも栽培面積を増やして、今年の米作りをスタートしました。

## 一つひとつ取り戻そう 農地の春景色

5月の初めから、村内のあちらこちらで田植えが始まりました。深谷地区や前田地区などでは震災後初の田植えです。

農地や水路、農機具の準備、あるいは手順の確認など、長い間離れていた米作りを再開するには、思わぬ時間がかかったようです。それでもいよいよ田植えが始まると、どのほ場にも、作業に励む人の笑顔がありました。「ようやく再開できた」という安堵感、ひとしおだったと思われる。

5月24日、佐藤博さん（二枚橋・須萱）の水田で、草野・飯樋・白石小学校の全校児童が、地域の人たちと一緒に田植えを行いました。小学校が川俣町の仮設校舎にあった昨年までは、福島市荒井の水田で行っていましたが、今年はいよいよ村内での田植えです。子ども達は、苗の束を分け合いながら、一株ひと株丁寧に手植えをしていきました。松林勇人さん（6年生）は「土がやわらかくて気持ちよかったです。今年は転ばずにできました」と満足そうに笑顔を見せました。

## 村内の水田に子ども達の笑顔



青空の下で児童の楽しそうな声が響きました。手伝う大人も「楽しいねえ」と思わず笑顔に。秋には収穫祭も行う予定です

## 草野・飯樋・白石小学校 全校児童が二枚橋で田植え

## 一般放牧 放牧の本格再開を目指して

一般放牧の実証は、5月23日、関根・松塚牧野利用組合の草地で始まりました。約2ヘクタールの草地を2区画に仕切り3頭ずつ、合わせて6頭を放牧し、傾斜地での放牧方法を確認していきます。



一歩一歩進んでいる感じはあるね。実証が順調に進み、放牧ができるようになれば、水田と畑地の両方でやってみたい。今は福島市飯野町の牛舎で繁殖牛を飼っているが、村の自宅の牛舎が完成したら、村で繁殖、飯野で肥育をやる予定。畜産一本でと考えている経営者の息子（豊さん）の構想です。ゼロからの出発ですから、この際、生まれも育ちも飯館の、正真正銘の「飯館牛」を目指して、品種の改良もやってみたいなあ。

安全性を確認し、さらには実証で得られた知見を生かして、農家の皆さんに、いろいろな可能性をお知らせしていきます。



放牧の実証に協力  
山田猛史さん（関根・松塚）



復興対策課農政第一係  
杉岡 誠 係長

### なりわい農業 生きがい農業

春を迎えて、花や野菜を出荷用に生産する「なりわい農業」に取り組む人も増えていきます。昨年からは出荷を始めたカスミノウの生産組合には、20代・30代の新規生産者が加わります。

また、自家消費用の「生きがい農業」に取り組む人も、昨年度の160件に加えて、さらに70件ほどの申請が提出されています（5月25日現在）。新たに村内で農業を始める方は、事前に村復興対策課農政第一係までご連絡をお願いします。再開時に活用できる補助事業の紹介や、堆肥の提供なども行っています。

復興対策課農政第一係 ☎0244-42-1621



## 水田放牧 2年目の実証がスタート

松塚地区で、5月8日にスタートした水田放牧の実証。昨年に続く2回目の実証です。水田放牧は、当分使われない水田を放牧地として活用する新しい試みです。

### 畜産の再開も 一歩一歩 着実に

松塚地区で、「水田放牧」「一般放牧」の実証が、およそ3か月の予定でスタートしました。これは、県畜産研究所による実証です。一定の条件下で放牧を行い、期間中に数回、草と土、さらには牛の血液の検査・測定を行います。

このうち水田放牧の実証は、昨年に続く2回目。前回の血液の測定値はND（検出限界値未満）という結果でした。今年には「一般放牧」（草地での放牧）の実証も合わせて行い、放牧の本格的な再開へ、安全で有効な方法を確かめていきます。

また一方、村内の牛舎で畜産を再開する動きも、少しずつ広がりをみせています。村内で畜産を再開する際は、県の指導・協力のもと、あらかじめ畜舎の清掃やモニタリング検査を実施します。また、3か月ごとの飼養状況の聞き取り訪問により、生産者は安心して飼養に取り組むことができます。

### 牛飼いの再開のたより



2頭の雌牛を預けていましたが、1頭は出産時に亡くなったそうです。三坂さん（左から2人目）が「家族が帰ってきたね」と迎え入れると、母親の美枝子さん（左端）は涙をこぼしながら牛に語りかけました。「覚えてるかな。ここ（仔牛）なすのが楽しみだな」

5月25日、三坂光一さん（白石）の牛舎に牛が帰ってきました。避難の際に、猪苗代町の県畜産研究所沼尻分場に預けた雌牛1頭です。この牛は、村民が沼尻分場に預けた牛の最後の1頭だったということです。戻って来た牛は、古い家を改修した牛舎につながれ、落ち着いた様子で飼料を食べ始めました。村内の牛舎で和牛の飼養を再開したのは、三坂さんが6人目です。※5月25日現在



## 色鮮やかな山ツツジ 「大人の遠足」で満喫

5月13日、「大火山ツツジの森自然公園」で、きつづきの会（川俣自治会）主催の散策ツアーが催されました。この山ツツジの自生地は、村議員OB会が、平成16年から地道な整備活動が続けてきた場所。その成果が実りつつある矢先の震災でした。

今年は例年より花つきがよく、色も鮮やかとのこと。この日の散策ツアーには、約50人が参加し、山肌を朱色に染めた満開の山ツツジを楽しみました。

自生地を登るルートは体力に合わせて選択しました。頂上に向かう道が舗装され、車でも登りやすくなりました。散策の後には、アツアツの豚汁や花見団子が振る舞われ、参加者の会話ははずみまわりました。齋藤政行会長（前田）は、「村の人でもまだこの光景を知らない人がいます。もっともっと訪れて見てほしいですね」と話していました。



## ツツジに染まる大火山

散策ツアー

散策した後の楽しみ。現地で手作りした豚汁とデザート白玉団子、持ち寄りの昼ご飯に舌鼓。



村と村商工会青年部が道の駅で催した「いいたて こいのぼりまつり」。20匹のこいのぼりが泳ぐイベント広場で、ヨーヨーつりや型抜きなど触れ合いいっぱいの縁日コーナーを子ども達を楽しみました。

## いいたて こいのぼりまつり



多くの親子連れが訪れました。先着150人に振る舞われた「までい牛」の焼肉や、キッチンカーが並んだグルメコーナーも大人気。ゴーカートや大型遊具にも笑顔が集まりました。

## いいたて村の道の駅

## ゴールデンウィーク

# GWににぎわう「までい館」

## までい工房美彩恋人 春祭り



「までい工房美彩恋人／代表・渡邊とみ子さん（前田・八和木）」が出演し、凍み餅の試食、柏餅づくりなどで来場者と交流しました。砂糖醤油をからめた凍み餅や特産カボチャの菓子、味噌じゃがなど、手づくりの味が来場者を魅了しました。

## 春のにぎわいを 呼び寄せたのは 村民の熱い思い

春先の暖かさで、桜の季節は足早に過ぎていききました。そのほとぼりが冷める間もなく、5月の村もにぎわっていました。

10年ぶりに行われた大雷神社の遷宮大祭、集う人々の親睦を深めた「飯桶四区復興祭」には、多くの人が力を合わせました。ツツジの森の「大人の遠足」も、道の駅の催しも、村を活気づけたいという皆さんの思いが形となったものです。

農業の再生の動きも一段と広がりを見せました。震災前に比べれば、まだごく一部の農地であり、ゼロからの再開は、それぞれ容易ではありません。それでも、再び農業に向き合う人の笑顔は晴れやかでした。全村避難の影響を押しのけて、一歩でも前に進むという村民のパワーが作り出したにぎわいでした。

# 復興を歩む

vol.37

サポートセンター  
「つながっぺ」

昨年9月にオープンしたサポートセンター「つながっぺ」は、村の人達が気軽に訪れて、運動や趣味を楽しめる施設です。「つながっぺ」は、「いたてクリニック」と同じ建物に併設されています。運営は、村の委託を受けた村社会福祉協議会が行っています。

開所時の登録者は約20人でしたが、8か月余りが過ぎた5月16日、100人目の登録者が「つながっぺ」にデビューしました。100人目となったのは、森永安子さん（前田・八和木）です。センター内で、記念のセレモニーが行われました。

セレモニーには、村社会福祉協議会の菅野茂会長（関根・松塚）、安部光夫事務局

長らが出席。理事で村民生児童委員協議会会長の松原光年さん（小宮）もお祝いに駆けつけました。菅野会長は、「100人達成はもちろんなうれしいが、これも通過点です。200人、300人と登録者が増えていくよう期待しています」とあいさつしました。

記念の花束を贈られた森永さんは、「何十年も生きてきて、こんなことは初めてです」と驚きながらも笑顔を見せ、「利用している人から誘われて今日初めて来たけれど、たいしたものですね」と第一印象を語りました。この日は軽運動やタペストリー（壁掛け）の制作などをスタッフと一緒に楽しみました。

「つながっぺ」スタッフの谷米理恵子さんは、「楽しみに来てくださる方がたくさんいます。利用者さんから『楽しかったよ、また来るね』などと声をかけていただくと、本当にうれしくなります」と笑顔で話していました。

前列中央が、登録100人目の森永さん。右は菅野会長、左が安部事務局長。この日の利用者の皆さんも登録100人をお祝いしてくれました。



## 「つながっぺ」を利用するには

毎週月曜日から金曜日の午前10時から午後3時まで開いて、日替わりでさまざまな活動を行っています。遠足などを行う場合もあります。昼食代は1回300円。送迎は、行政区ごとに曜日が決まっています。事前の利用登録が必要ですので、ご希望の方は、まずは電話でお問い合わせください。

サポートセンター「つながっぺ」  
☎0244-26-5207

小さい頃は消防団を見て「カッコいいなあ」と思っていました。2年ほど前に近所の人のお勧めで入団。初めは団の規律などに驚きました。年の近い人に入ってほしいですね。同世代が増えたらより楽しく活動できそうです。



大内測量設計事務所  
石井秀哉さん  
(飯樋町)

村内企業で働く団員に聞きました  
**若き団員のホンネ！**



濱田建設工業  
坂井 凌さん  
(飯樋町)

父が消防団を引退するにあたり半強制的な入団でしたね(笑)。訓練などにはなかなか参加できませんが、職場が村内ですし、祖父母は帰村しています。いざという時には出動して行かなければと思っています。

**1人でも多くの方で**

村内企業や役場消防隊の協力を得て、心強く思っています。消防団は、火災以外にも遭難捜索などの際に、なくてはならない存在。村外に暮らす人は出動も大変かと思いますが、1人でも多くの人に加わっていただき、万が一に備えたいと考えています。



飯館村消防団  
高野 進 団長  
(八木沢・芦原)



**飯館村消防団 基本情報**

- 団長 高野 進
- 副団長 赤石澤 傳
- 本部分団長 川村 仁
- 第一分団長 大和田 保男
- 第二分団長 菊地 昇
- 団員数 209  
(平成30年4月時点)

**村内火災種別・年間発生件数**

種別	29年	28年	27年	26年	25年
建物	1	1	1	0	2
林野	2	0	0	0	1
車両	1	0	0	1	0
その他	0	0	2	2	2
計	4	1	3	3	5

※写真は機械器具点検

**自分のふるさととは、自分達で守る。**

**飯館村消防団**

ふるさとを、守る人になる。  
消防団員募集  
【入団資格 18歳以上の健康な方】  
詳しくは村総務課総務係まで  
☎ 0244-42-1611



同日、交流センター「ふれ愛館」で開かれた女性消防隊役員総会。今年度の活動等話し合いました



規律訓練で整列し検閲を受ける団員。検閲式には、村外で暮らす団員が多数参加しています

**村民の安全・安心を守る**  
4月22日、南相馬消防署飯館分署南側駐車場で、飯館村消防団春季検閲式が行われ、消防団員、女性消防隊員、役場消防隊員ら約100人が参加し、検閲に臨みました。  
式では、来賓らが見守る中、隊員の服装や、消防ポンプ車等の点検が行われました。また、高野進団長が「村内で式を開催でき、復興を感じる事ができる。火災予防には村民一人ひとりの防火意識がとて大切。団として、関係機関と連携し一層の活動をしていこう」と呼びかけ、参加者も活動への決意を新たにしました。  
今年度は、隊員の訓練成果を競う消防ポンプ操法競技大会が8月に予定されている他、復興が進むにつれ、村内の防火・防災活動がより重要になっていきます。  
村消防団では、団員を募集しています。あなたの手で、村を守りませんか。



村の映像が世界で評価を受けました

## 世界に配信! 飯舘村VR映像がドイツで金賞!

村が昨年制作したVR360度映像「までの心めぐりて」が、5月16日にドイツで開催されたワールドメディアフェスティバルにおいて、Web TV：360度Virtual Reality（ウェブテレビ360度バーチャルリアリティ）部門で金賞を受賞しました。

ワールドメディアフェスティバルは、企業映像や教育番組を対象とした映像の国際大会です。ドイツ・ハンブルクで2000年から開催されていて、芸術面や技術面が優れている作品を表彰しています。今回は37か国から約800作品が出品されました。



### VR映像とは

VRとは「Virtual Reality（バーチャルリアリティ）」の略で、「仮想現実」と訳されます。まるで自分が映像の中にいるかのような体験ができる技術です。村が作成した映像は、インターネットで公開している他に昨年は小学校の特別授業で活用されました。

## VR映像を見るには、「飯舘村 VR」で検索!

飯舘村VR映像「までの心めぐりて」は3部作で各約5分間の映像です。スマートフォンやタブレット端末で「飯舘村 VR」で検索すると、村の魅力が詰まった映像をご覧いただけます。

お使いのインターネット環境や通信速度によってご覧いただけない場合がありますので、その場合は総務課企画係までお問い合わせください。

問 総務課企画係（本庁 ☎ 0244-42-1613）



村の自然や復興に取り組む村民の姿が映像で記録されています

# 飯舘村で、あなたの力を発揮しませんか

## 平成31年度飯舘村職員募集のお知らせ

平成31年度飯舘村職員(大学卒程度)及び資格免許職(幼稚園教諭)採用候補者試験を次により行います。

採用職種	一般事務（大学卒程度）	資格免許職（幼稚園教諭）
採用人数	若干名	
受験資格	昭和48年4月2日から平成9年4月1日までに生まれた者。	昭和48年4月2日以降に生まれた者で幼稚園教諭及び保育士両方の免許を有する者。 または、平成31年3月末までに両方の免許を取得見込みの者。
試験方法及び内容	第1次試験 教養試験及び適性検査 (択一式による筆記試験)	第1次試験 教養試験及び専門試験、適性検査 (択一式による筆記試験)
	第2次試験 面接及び小論文等	
第1次試験	試験日 <b>7月22日(日)</b> 受付 午前9時～午前9時30分 教養試験 午前10時～正午 適性検査 午後1時～午後2時	試験日 <b>7月22日(日)</b> 受付 午前9時～午前9時30分 教養試験 午前10時～正午 専門試験 午後1時～午後2時30分 適性検査 午後2時40分～午後3時30分
試験場所	福島大学 福島市金谷川1番地	

◆発表 … 平成30年8月下旬に村役場掲示場に合格者受験番号を掲示するほか合否について通知  
※第2次試験(平成30年9月下旬開催予定)の詳細は第1次試験合格者へ通知

○受験手続

◆申込用紙交付及び提出先 … 飯舘村役場 総務課 総務係

〒960-1892 飯舘村伊丹沢字伊丹沢580番地1

※郵送により申込用紙を請求する場合：封筒の表に「大学卒程度試験申込用紙請求」又は「幼稚園教諭試験申込用紙請求」と朱書きし、120円切手を貼った自分宛での返信用封筒（角形2号）を同封してください。

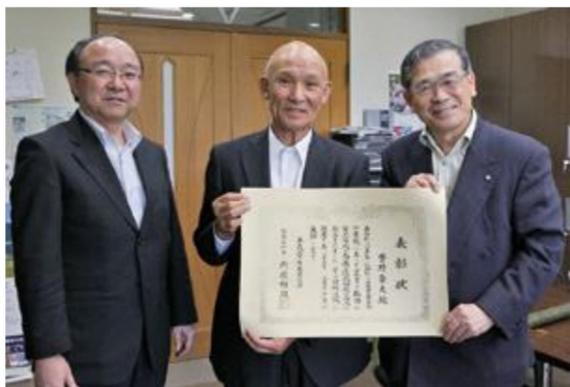
※郵送により申込用紙を提出する場合：封筒の表に「大学卒程度試験申込」又は「幼稚園教諭試験申込」と朱書きし、82円切手を貼った自分宛での封筒を同封してください。

○受付期間 … **6月22日(金)まで**

※郵送による申し込みは **6月20日(水)まで**（当日消印有効）

問 総務課総務係(本庁 ☎ 0244-42-1611)

## 菅野宗夫さんに知事表彰 農業再生と地域振興の功績に



表彰の報告に来庁した菅野さん(中央)と、菅野村長(右端)、石井農業委員会事務局長(左端)

5月15日、杉妻会館(福島市)で、平成30年度各種功労者知事表彰が行われ、菅野宗夫さん(佐須)が表彰を受けました。震災前から農業委員会の要職を務め、農業の振興と再生、さらには地域づくりに貢献してきた功績が認められたものです。来庁し表彰を報告した菅野さんは、「農業委員が一丸となってやってきた。その全員を代表して受けた表彰だと思います。農業者の意欲をつなぎ、若い農業者とも意見を交わし、村の農業を次の世代につないでいきたい」と語りました。



鈴木先生(中央)を囲む参加者の皆さん

男性参加者も大歓迎！  
心和むひとときを

## 大人気の寄せ植え教室 8種類のハーブで

5月20日、交流センター「ふれ愛館」で、樹木医の鈴木俊行先生を講師に「寄せ植え教室」を開催しました。豊富な知識を愉快的な話術で伝えてくださる鈴木先生の講座は毎回大人気。今回は30人が参加し、富良野ラベンダーや日本ハッカ、パイナップルミントなど8種類のハーブを、白い角鉢に植え込みました。参加者は先生のアドバイスを受けながら、自分好みの寄せ植えを仕上げ、充実した時間を過ごしていました。寄せ植え教室は継続開催中で、次回は11月に開かれる予定です。



多彩なアプローチで  
宇宙を語る早野先生



村復興アドバイザー・田中俊一さん(上飯樋/写真右上)が子ども達のために企画した特別授業の第1弾

## 東大名誉教授 早野龍五先生 宇宙をテーマに特別授業

5月22日、飯館中学校で、東京大学名誉教授の早野龍五先生による特別授業が行われ、全校生徒と教職員、聴講に訪れた村民らが、宇宙について学びました。前半は早野先生が、さまざまな角度から宇宙の姿を解説。後半は生徒がグループに分かれて、月までの距離や宇宙年齢の概算に挑戦しました。出題3問の解答を代表の生徒がホワイトボードで説明すると、先生は「よくできたね」とそれぞれを賞賛。授業の後には「関心が深まった」「誰かに教えたい」と語る生徒の姿がありました。

## ジャズにのり笑顔もスイング 「ふれ愛コンサート」

4月21日、交流センター「ふれ愛館」で、自主文化事業「ふれ愛コンサート」が開催されました。出演は、「城所辰男と横浜ハッピーセブン」「福島高校Jazz研究部」「スインギン・イージー」の3バンド。ジャズをメインにクラシックや昭和歌謡も演奏し、約50人の聴衆を楽しませました。城所辰男さんは90歳の現役プレイヤーで、和やかなトークでも会場を盛り上げました。また、高校生の演奏には、会場から思わず声援が。終始あたたかな雰囲気にもまれ、音楽を楽しむひとときとなりました。



フィナーレは出演バンド合同のステージ。ラストナンバー「ふるさと」は会場も一緒に歌いました

## 今後の課題を協議 避難村民自治組織連絡協議会

5月10日、村役場で、避難村民自治組織連絡協議会が開かれました。避難先の自治会は18団体ありましたが、解散が徐々に進み、今年度も継続するのは8団体。年度途中の解散も複数見込まれています。会では、自治会ごとの状況が報告され、仮設住宅等の供与期間が終了する年度末も見すえて、今後のあり方が話し合われました。菅野村長は「知らない者同士が家族以上のつながりを作ってきた」と自治会の意義に触れ、課題に共に向き合うことを、一同で申し合わせました。



各自治会の会長が、今後の活動や支援のあり方について意見を述べ合い、村と協議しました

## ウクライナからの訪問団 村の復興にあたたかなエール

5月15日、ウクライナの訪問団が来庁し、村長や復興対策課の職員と懇談しました。訪問団は、福島市で行われた国際シンポジウムに参加した同国の行政関係者で、村の復興に関心を寄せ来村しました。菅野村長は、震災後の経緯と現在の課題を説明し、「我々が学んだことを次世代にどう伝えていくかが重要」と考えを述べました。訪問団のスラヴティチ市・ユーリー市長は、「我々も(原発事故の)避難者。村の復興は勇気を与えてくれる。心から応援しています」と思いを伝えました。



通訳を通じて復興の現状と村の考えを伝えました



握手を交わし記念品を手渡す訪問団のユーリー市長(右)と菅野村長

身近な話題をお届けします。皆さんからの情報お待ちしております。

つながるアルバム

こども園に親子の笑顔

4月27日、「までのりの里のこども園」で初めての保育参観が実施されました。子ども達は、新しい園舎にもすっかり慣れた様子で、親子の活動を楽しみました。4歳児・5歳児は、わんぱくホールで運動遊び(左の写真)。タオルを使ったゲームでお父さんやお母さんと対戦し、盛り上がりました。



タオルを使ったゲームでお父さんと対戦!



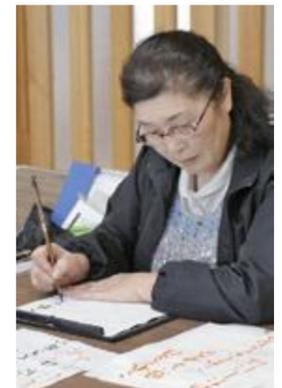
わんぱくホールで大人も子どもものびのびと

習字を楽しむ大人の時間

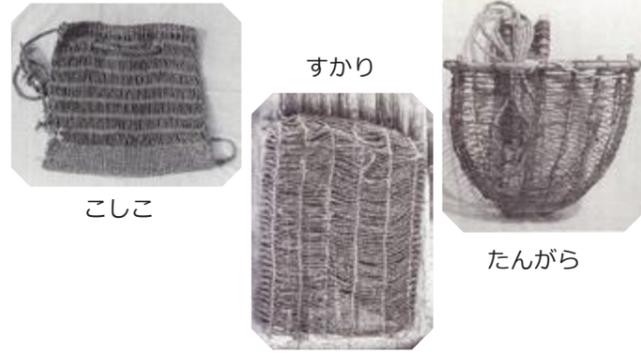
月に2回、交流センター「ふれ愛館」で、書道を楽しんでいる「書友会」の皆さん。メンバーは9人で、長正サツキさん(大久保・外内)が講師を務めています。「好きな言葉、心から書きたいもの」をそれぞれが題材を選んで書くのだそう。心静かに書に向かい、合間のおしゃべりも和気あいあい。素敵な時間を過ごしていました。



「80の手習い」を楽しむ洪佐雅子さん(草野)。左は講師の長正さん



武藤やい子さん(二枚橋・須萱)は漢字を学び直しているそうです。興味の幅も広がりますね



たんがら・すかり・こしこ

人の力で物を運ぶには、手持つ、肩にかつぐ、背負うなどの方法がありますね。用途に合わせて効率的に運べるよう、工夫を凝らした用具が作られていました。

例えば背負って運ぶ用具を3つ紹介しましょう。「たんがら」は、木の枝を組んだ枠にアケビド(地上にのびたアケビの横根)を巻いて作る背負いカゴ。軽くて、物の出し入れが便利な形をしています。「すかり」は、背中あてをして背負う袋状の用具で、根や葉やツルなどかさばる物を運びました。横編みで作ると、編み目が広がるので、たくさん入れることができます。

「こしこ」は、「すかり」より小型で、道具や弁当を入れたり、採った青菜やキノコを入れたりしました。こちらはふくらまないよう縦編みで作られたそうです。暮らしに必要な道具を、手に入る材料で。用途や細工に適した植物を選ぶ知識もすごいですね。編み始める前の材料の加工にも丁寧な工程がありました。手作りの味

参考/写真転載 飯館村史第3巻「民俗」

身近な情報をお寄せください

身近な話題や情報をお寄せください。村内はもちろん、日頃なかなか取材にうかがえない県内外の避難先からも大歓迎です。※紙面スペース等の都合上、必ずしも掲載とならない場合もありますが、その際は何卒ご容赦ください。

封書や葉書で情報をお送りいただく場合は、連絡可能な電話番号をお書き添えください。

【情報提供はこちらまで!】  
〒960-1892  
相馬郡飯館村伊丹沢字伊丹沢  
580番地1 飯館村役場  
総務課企画係 広報担当宛  
☎0244-42-1613 (企画係)

6/30 映画 この世界の片隅に

6月30日(土)  
1回目 午前10時30分から  
2回目 午後1時10分から  
※上映時間 2時間6分  
交流センター「ふれ愛館」  
入場無料 定員各200人

昭和19年に軍港の街・呉に嫁いだ18歳のすずが主人公。すずは工夫を凝らして戦時下の家族の暮らしを明るく丁寧に紡いでいきます。

観覧希望の方は電話またはFAXでお申し込みください。

交流センター「ふれ愛館」  
電話 0244-42-0072  
FAX 0244-42-0860

交流センター「ふれ愛館」で話題の映画を無料上映! この機会にぜひご観覧ください



村は、村主催のイベントや村民の皆さんの取り組みを取材し、広報紙・ホームページ等に掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数でも総務課企画係までご連絡ください。

# 入札結果をお知らせします

入札日／4月13日(単位：円)

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込)	請負業者	完成予定
飯館村役場本庁舎床面等清掃業務	868,320円	(株)東武 相双支店	平成31年 3月中旬
飯館村役場飯野支所補修工事	3,456,000円	(株)古俣工務店 川俣支店	平成30年 6月中旬
電子申告対応業務	1,155,600円	(株)福島県中央計算センター	平成31年 3月下旬
収納管理システム対応業務	3,024,000円	(株)福島県中央計算センター	平成31年 3月下旬
滞納管理システムホスティング環境構築業務	7,884,000円	(株)福島県中央計算センター	平成30年 9月中旬
健診案内通知等作成業務	1,447,200円	福味商事(株)	平成30年 5月下旬
コミュニティ形成事業業務	2,052,000円	飯館村社会福祉協議会	平成31年 3月下旬
村外在宅サービス等送迎業務	14,904,000円	(株)トーネット	平成31年 3月下旬
パークゴルフ場開発許可申請書作成業務	8,208,000円	(株)福建コンサルタント	平成30年 5月下旬
きこり送迎車購入	4,367,779円	大澤自動車整備工場	平成30年 8月中旬
営農再開支援事業農地保全管理業務	6,912,000円	(一財)飯館村振興公社	平成31年 3月中旬
平成30年度第1号 村道点検、草刈り、側溝土砂上げ、支障木伐採、除草剤散布作業業務(村内一円)	18,360,000円	(有)渡建工業	平成31年 3月下旬
平成30年度第2号 村道点検、草刈り、側溝土砂上げ、支障木伐採、除草剤散布作業業務(村内一円)	24,300,000円	(株)英工務店	平成31年 3月下旬
平成30年度第3号 村道点検、草刈り、側溝土砂上げ、支障木伐採、除草剤散布作業業務(村内一円)	24,192,000円	(有)福相建設	平成31年 3月下旬
平成30年度第4号 村道点検、草刈り、側溝土砂上げ、支障木伐採、除草剤散布作業業務(村内一円)	23,058,000円	濱田建設工業(株)	平成31年 3月下旬
平成30年度第1号 帰還再生生活道路整備工事(深谷字原)	13,392,000円	濱田建設工業(株)	平成30年 11月下旬
平成30年度第2号 帰還再生生活道路整備工事(伊丹沢字伊丹沢)	18,576,000円	(株)東栄	平成30年 11月下旬
平成30年度第3号 帰還再生生活道路整備工事(関沢字中里)	19,548,000円	(有)渡建工業	平成30年 11月下旬
平成30年度第4号 帰還再生生活道路整備工事(蕨平字蕨平)	12,960,000円	(有)渡建工業	平成30年 11月下旬
平成30年度第5号 帰還再生生活道路整備工事(白石字町)	12,344,400円	(株)英工務店	平成30年 11月下旬
平成30年度第6号 帰還再生生活道路整備工事(飯樋字大火)	25,380,000円	(有)福相建設	平成30年 11月下旬
平成30年度第7号 帰還再生生活道路整備工事(飯樋字宮仲)	16,740,000円	(株)英工務店	平成30年 11月下旬
平成30年度第8号 帰還再生生活道路整備工事(飯樋字八和木)	15,984,000円	(株)東栄	平成30年 11月下旬
平成30年度第1号 営農再開支援水利施設等保全事業(飯館地区)農業用施設等点検除草清掃業務	11,340,000円	(有)福相建設	平成31年 3月下旬
第39回学校等再開整備事業備品購入(小学校体育館舞台吊物幕等)	6,804,000円	(株)東北舞台工業	平成30年 7月下旬
第40回学校等再開整備事業備品購入(小学校体育館暗幕等)	1,080,000円	北日本紙業(株)	平成30年 7月下旬
飯館村学校等再開整備 防球ネット工事	23,166,000円	(株)古俣工務店 川俣支店	平成30年 7月下旬
スポーツ公園野球場照明設備改修工事	45,792,000円	(株)青田電気商会	平成30年 7月下旬



▲神事で工事の無事を願う菅野村長



▲風力発電設備2基の完成イメージ

**太陽と風の自然エネルギー**  
4月24日、村が共同出資している「いいいたてまでいな再エネ発電株式会社」が風力発電設備の起工式を行い、来年4月の運転開始に向けて、関係者らが設備の無事完成を願いました。同社では、平成28年から運用を開始している太陽光発電設備と新たな風力発電設備を組み合わせ、効率よく発電する「クロス発電」を導入します。これにより、太陽光発電が天候等の影響で不足した場合に風力で補います。今回のような再生可能エネルギーの連携は国内で初めての取り組みです。

## 5月の村の動きと主なできごと

- 2日・仮設住宅・公的宿舍管理人会議(松川事務所)
- 3・4日・飯樋四区復興祭(大雷神社)
- 7日・相馬農業高校飯館校村立化断念にかかる記者発表(村役場本庁)
- 8日・水田放牧 平成30年度実証事業開始(松塚地区)
- ・田植え開始(村内12地区)
- ・相農飯館校の再生を考える会(村役場本庁)
- 10日・飯館村避難村民自治組織連絡協議会(村役場本庁)
- 16日・ワールドメディアアフェスティバル授賞式(ドイツ・ハンブルグ)
- ・内堀雅雄県知事の視察(草野・飯樋・白石小学校/飯館中学校)
- 17日・あぶくまロマンチック街道構想推進協議会(宿泊体験館きこり)
- 19日・いいいたてつ子運動会(飯館中学校体育館及び小中学校校庭)
- 21日・第5回農業委員会定例総会(村役場本庁議場)
- ・飯館村商工会総会(宿泊体験館きこり)
- 22日・早野龍五先生 特別授業(飯館中学校)
- 23日・一般放牧 実証事業開始(松塚地区)
- 24日・草野・飯樋・白石小学校田植え体験学習(二枚橋地区)
- ・定例教育委員会(村役場本庁)
- 25日・村議会常任委員会合同所管事務調査(村内)
- 28日・学校運営協議会(村役場本庁)
- 29日・村民の営農再開に伴う学習会(交流センター「ふれ愛館」)
- 30日・相馬農業高校飯館校の在り方に関する検討協議会(県庁)
- 31日・飯館村森林組合通常総会(交流センター「ふれ愛館」)

## 周りに人が集まる人？

### こころの ぽけっと

以前「なぜ、この人の周りには人が集まるのか」という題の本を読んだ記憶があります。基本的には、「ものを肯定的に考えられる人」であり、かつ「おもしろいエピソードをもっている人」のところに人は集まるということでした。

長い人生の中では、誰だっているんな困難や苦しみ、悲しみがあります。そんな時、そう簡単に前向きに考えられるものでもないし、ユーモアのある話など出来るものでもありません。でも、この避難中私の1つの心の支えになっていたことに、ある町長さんの考え方やユーモアのセンスがありました。もうすでに亡くなった方ですが、毎日の激務にもかかわらず、常にユーモアのある話をして私たちの心を和ませてくれました。例えば、「グレしてやると言った息子に『ボケてやる』とか「朝帰り妻と子どもは里帰り」「なぜ怒る 早く帰って来ただけで」などなど。こんなものもありました。「ままならぬ 妻と議会と足と腰」。

自分に振り返った時、ユーモアなどお寒い限りですが、1つの考え方に固執せず、いろんな考え方の中からより良い選択をしていくという柔軟な考え方が必要なんだと、その方から学んだことでした。

いずれにしても、たった一度きりの人生ですから、人から遠ざけられる人より、周りに多くの人が集まってきてくれる人生の方が良いに決まっています。私も人生の後半の後半ですから、もうちょっと、そのようなことに心かけていくことも大切なことだと思ったりしてました。

平成30年5月22日 飯館村長 菅野 典雄



### 誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の氏名	行政区
眞柴 紬ちゃん	哲宏・優佳	草野
今野 心と翔くん	直樹・麻衣	宮内
菅野 健と人くん	仁・千春	比曽

すくすくと元気に育ってね



### 結婚おめでとう

氏名	出身地
永田 晃司	福岡県
菅野 舞	佐須

いつまでもお幸せに



### おくやみ

氏名	年齢	行政区
庄司 徳松	98	大倉
佐藤 一二	95	前田
菅野 正一	84	関根・松塚
高橋 一	92	小宮
松浦 ミツイ	92	草野

(4月16日から5月20日までに届け出のあったものを掲載)  
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

### ひとのうごき

ひとのうごき		4月1日～30日までの人口動態	
(平成30年4月30日現在)		◆◆人口動態◆◆	
人口	今月 (前月比)	転入	11人
男	2898人 (+3)	転出	4人
女	2911人 (-1)	出生	2人
備計	5809人 (+2)	死亡	7人
世帯数	1816戸 (+9)	(住民基本台帳人口)	

## ひとかたるものがたり 第15回

### 佐藤 公子さん (飯桶町)



元保健師。村役場を平成27年に退職。詩のサークル「ポエム 福島空の会」で詩を勉強中。平成29年「雨二モマケズ」朗読全国大会で大賞を受賞しました。

震災後、村の地域包括支援センターで、高齢者の方が避難先でうまく暮らせるよう、訪問しながら支援をしていました。デイサービス等、通所できる所が見つかったら、数人一緒にお世話になれるよう働きかけました。同じ村の人がいたら、会いに行くことがきつと楽しみになるからです。

一番苦労した方々は、高齢者やそのご家族だと思っています。開墾や構造改善をして田んぼを広げ、家の基礎を作った世代。みんな「この地で

一生を送る」と思っていたはず。避難で自分の暮らしを失くした人達は、「作物を育てる喜びも生きがいも奪われた」と話していました。

今の時期なら、田植えも終わり一段落。柏餅を作り、手休めをしていた頃ですね。畑や庭の草むしりもひと仕事でした。そんな普通の暮らしを送れない悔しいだろうと思います。

震災後に知り合った人達と、「ポエム 福島空の会」というサークルで詩を学び、事故

後の気持ちを詩で表現しようと試みています。

ある日突然「日常を奪われる」「自分で考え営んできた暮らしを奪われる」ということが、どういうことなのか。震災は天災ですが、原発事故はやはり人災ではないでしょうか。

原発事故のことを、個々の目線で、語り継いでいくことが大切だと思います。事故が起きた時、避難と言われた時どう思ったか。避難先でどんな暮らしをしたか。その避難で何を失い、何を得たか。それをまとめていかなければならないのではないかと思っています。歴史の教科書ではなく、じいちゃん、ばあちゃんの話として。最も身近な人の話は、人生の選択を迫られた時、次の世代を生かせる人達の道しるべになると考えます。

自分の言葉で、次の世代に、それぞれの伝え方で申し送ることが、今を生かせる私達の役目ではないでしょうか。子ども達や孫達が、幸福に生きられるように。

## おしえてくんちえ! 堀先生

## 心も自分も大切に。

村民の皆さんからの相談に、堀先生がお答えします

### 相談 忙しい日々で、ホッと一息したいのですが。

6月に入り、忙しかったのが一息ついた方もおられると思います。「忙しい」という字は、「心」が「亡(な)くなる」と書きます。これは先のことを心配したり、昔のことを気にしたりして、「いま、ここ」のことから心が離れてしまった状態のことです。そんな時には、目の前のこと一つ一つに「まてい」に取り組んでみましょう。今のことに、十分に自分の心を向けられていることを「マインドフル(こころがいっぱい)」と呼び、不安から解放される方法として注目されています。ゆっくりと味わいながらの深呼吸でも、それを体験できます。



精神科医 堀 有伸 先生  
ほりメンタルクリニック院長

「心の健康相談」お問い合わせは 健康福祉課健康係 (いちばん館内) ☎0244-42-1638まで



4人の3・4年生が会場を熱く盛り上げる！



小学生が、中学生や中学校の先生と走るチャンス走も！工夫いっぱい競技を力いっぱい楽しんで、心も体もポカポカに。

つながる楽しさ満載心ひとつにゴール



保護者らのお囃子で全員参加の盆踊り



いよいよ始まるみんなの運動会



オープニングは体育館で。応援合戦では中学生のリードに全学年が声を合わせました。こども園の競技は見る方も自然とにこにこ顔に。



### フォトニュース 園小中合同運動会

# いいたてっ子 運動会

5月19日、平成30年度「いいたてっ子運動会」が開かれました。ままでの里のこども園、草野・飯樋・白石小学校、飯館中学校の子ども達による初めての合同運動会です。前夜の雨の影響で、開会式とこども園の競技の一部が中学校体育館で行われましたが、保護者の積極的な協力で校庭の雨水処理が行われ、その後は校庭での競技を思い切り楽しむことができました。競技にも工夫があり、縦横の交流が多く生まれました。また、校種を越えて、子ども達が先輩の活躍や思いやりに触れたことも、心に残る経験となったようです。



優勝杯をさっと小学生へ手渡す素敵な中学生です



小中学生が騎馬を作った神旗争奪戦、園児→小学生→中学生にバトンをつなぐ大迫力のリレー。胸を打つ場面の連続でした。

スペシャルな運動会この笑顔が成功の証



運営に大活躍の中学生競技も笑顔満開で

小学校低学年が100m、中学年が120m、高学年が150m、中学生が200mを力走。こども園の園児も笑顔のかけっこ頑張りました！

最速ランナー男女3人の表彰！



かいっぴい走れ！それぞれに躍動



# HOPES

ホープス セカンド  
2nd

今年4月に開園した村立認定こども園「までの里のこども園」の3歳児クラス「たいよう組」で保育補助を務める大久保さん。長男の昊君の入園と同時に仕事を始め、2か月が過ぎました。

「人数が少ない分、子ども達のがびのびと、落ち着いて過ごせると感じました」。こども園の環境も気に入る、夫の昌紀さんからも「応援する」と言わ

## 人のやさしさに触れながら

大久保 亜季美さん（大久保・外内）



村立認定こども園「までの里のこども園」で保育補助を務めています。大久保さんの再就職と同時に長男の昊（こう）君も入園。一緒に通勤・登園をしています。



昊君は「はな組」さん。3歳児の「たいよう組」を担当する亜季美さんとは日中ほとんど顔を合わせませんが、3歳未満児のお部屋でお友達と仲良く過ごしています。

これ、新しい仕事に挑戦することを決めたそうです。「協力がなかったら難しいです」と感謝。昊君が体調をくずした時には、昌紀さんのご両親が、リフォームしたばかりの村内の自宅で預かってくれたそうです。

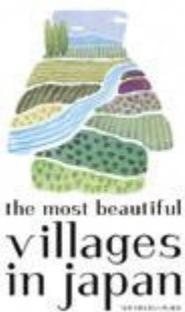
こども園で元気に過ごす昊君ですが、お迎えの時には待ち兼ねたように「ぎゅーっ」としてくるんです」。頑張っている昊君と過ごす時間も、これ以上に大切にしています。

福島市の出身で、震災後に結婚した大久保さんにとって、実は初めての飯館ライフです。「村の方はやさしいです。福島は近所付き合いも少ないですが、本当にやさしく接してくれるので話しやすい」と感じています。「先生方もやさしくて働きやすい。人間関係が苦じゃないんです。こんな気持ちで働けるのは初めて」とのこと。これからも村の子ども達の笑顔のため、子育てとの両立、頑張ってくださいね。

### へ編集後記

●村が昨年制作したVR映像が、ドイツで開催されたワールドメディアアフエスティバルで金賞をいただきました。震災から復興へ向かう村の動きを最新技術で撮影し、世界に配信しています。受賞式では「今、福島はどうなっているの」と世界各国の方から声をかけていただきました。改めて、世界中から応援、注目されているんだと実感。広報として、村を発信する使命をピシシと感じて帰国しました。ダンケシーン！※ドイツ語でありがとうの意味です。（木幡）

●松塚地区のあるお家で、庭に積まれた砂の上に、スノードロップ（マツユキソウ）が咲きました。移植しようと掘ってみたら、白い茎がどこまでも…球根は元の地面にあり、地上を目指して伸び続け、花を咲かせていたそうです。「これは大変」と埋め戻した彼女。「何だか励まされたんだ」と教えてくれました。その優しさにホレながら、見えない所で頑張つて、黙って咲いた白い花に、村の人達の姿が重なりました。春を告げる花です。（星）



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。